

新年明けましておめでとうございます

今年も宜しくお願い申し上げます

そして、これまで10年間で市議会議員を務めさせて
いただきありがとうございました



私は、平成15年4月に旧柳川市の市議会議員に初当選以来、新市誕生以降も平成18年10月、平成22年10月の選挙で当選させていただきましたが、昨年12月20日市議会議員を辞職させていただきました。これまで3期10年間で市議会議員を務めさせていただきましたこと、これまでいただいたご支援とご指導に深く感謝申し上げます。

この10年間、国政においては小泉・安倍・福田・麻生の自民政権から、平成21年には民主党政権が誕生し、鳩山・菅・野田内閣、そして今回の総選挙で再び自民政権となりました。社会に目を向けてみると、食品・耐震偽装問題、秋葉原通り魔事件や親殺し・子殺しなどの凶悪事件の多発、夕張市の財政破たん、年金と消費税問題、平成20年のリーマンショックと一昨年来のヨーロッパ緊急危機による経済の混乱と中国の台頭、更に尖閣諸島にまつわる中国漁船衝突事故、国有化に伴う中国の理不尽な対応と、日本を取り巻く環境は大きく動いています。そして一昨年の東日本大震災と福島原発事故は、今後の日本の行方を大きく変えようとしています。

そして、私達の柳川市は平成17年3月の新市誕生以降、石田市政、金子市政と8年が経過しようとしています。国から与えられえ財政優遇策を活用しながら、行財政改革を実行し、次の時代に向けた都市基盤整備を行うという目的は、いまだ道半ばです。

そういうなか私は、昨年12月20日、市議会議員を辞職し、今年4月に行われる市長選挙に立候補を表明いたしました。

地方分権が叫ばれ、国から地方の自立が求められている今、柳川市は更なる経費削減を行い、行政能力を高め、自らの責任と能力で独自の街づくりをしていかななくてはなりません。私は、これまでの培ってきた経験を生かし、子供達の世代に誇りを持って受け継いでいける柳川創りのために働きたいとの思いで決断いたしました。

平成二十五年 元旦

佐々木創主

さ さ き そうしゅ
佐々木創主議会報告38号（最終号）

この度、12月4日から17日間の日程で、12月定例議会が開催され、一般会計補正予算をはじめ17の議案が審議されました。以下、その主な内容、柳川市の動きも併せてご報告いたします。

平成24年第6回定例議会 会期：12月4日～20日

○一般会計補正予算（第7号）が全員賛成で可決しました

一般会計予算は、今回の補正で歳入歳出それぞれ14億3654万7千円が追加され、予算総額が318億6507万7千円となりました。これに先立ち、一般会計補正予算（第6号）で2209万5千円が追加されていますが、これは12月16日に行われた衆議院選挙にかかる経費で、全額県支出金でまかなわれ、投開票立会人・臨時職員・開票従事者報酬、ポスター掲示板設営費の費用です。

以下、主だったものをご紹介します

△九州北部豪雨の災害対応によって市職員の時間外勤務手当が2017万3千円増額されました。

△九州北部豪雨で被害を受けた中山保育園の施設整備のための補助金が支給されます。

改築費9523万5千円に対し、国・県・市あわせて8251万1千円が補助されます。

△西鉄柳川駅東西連絡通路の土台と電気施設の移設工事が行われます。(2億5370万円)

△生活保護受給世帯が699世帯から707世帯へと増えたことにより1000万円が追加されました。

△経営規模拡大を目的とした農地の借入れ代が補助されます。

水田面積5ha以上の規模の農家が3年間で3割以上耕作地を増やす場合、10a(1反)当たり5万円が交付されます。今回の農家は、3年間で307a借り入れ予定で、今年度47a分の23万5千円が交付されます。

今回の補正予算で、今後の課題となりそうなものがありますのでご紹介します。

△公民館活動と公民館・コミュニティセンターのありかた

柳川地区には小学校区ごとに7つの校区公民館がありますが、現在、大和・三橋地区に小学校区ごとにコミュニティセンターの建設が進められており、市は平成26年度までに11小学校区すべてを整備するとしています。

今回、その第1号として垂見コミュニティセンターが今年の3月から開館することとなりました。そこで、今回の補正予算でコミュニティセンターに配置される公民館主事補の person 費14万2千円、維持管理費26万7千円が計上されました。

下の表が現在の公民館長、主事などの報酬一覧ですが、今回の改正で今後整備される大和・三橋地区のコミュニティセンターには市が任命する主事補が配置されることとなります。その運営に要する費用は、person 費と維持管理費合わせて1館あたり400万円程度となりそうです。

地区	職名	月額	年額	地区	職名	月額	年額
	柳川	校区館長	62,000円			大和	館長
主事		155,000円		支館(校区)長			112,000円
主事補		124,000円		三橋	支館(校区)主事	30,000円	
専門委員			7,700円				

現在、柳川地区の校区公民館には、館長、主事、主事補が配置されています。大和・三橋地区では中央公民館長のほか、校区の活動は支館長と主事のほか会計と部門委員を中心に行われていますが、館がなくても充実した活動が出来ており、報酬が支払われる主事補の配置によって活動自体に影響が出るといった声も少なくないようです。

また議会では、当初大和・三橋地区のコミュニティセンター建設は人口3,000人をめどに、それに満たない場合は統合して建設するとしていたのに、結果的には人口1千人前後の校区にもすべて建設されることや、柳川地区には人口1万人の校区もありバランスが取れていないといった意見も出されました。

市は、11のコミュニティセンターが完成する平成26年度から3年間で柳川・大和・三橋地区の公民館運営体制を統一したいとしています。が、紆余曲折も予想されます。柳川方式、大和・三橋方式、それぞれのいい部分を取り入れ、意見を出し合い議論を尽くす必要があると思います。

△マルショク跡地問題

柳川(京町)商店街の核であったスーパーマルショクが平成20年に撤退して以降、近隣住民にとって食料品をはじめ日用品の買い物が不便となり、近隣の商店にも大きな影響を与えていたため、柳川商店振興組合からマルショク跡地を活用し活性化を図りたいとして、市に跡地購入の要望が出されていました。今回の補正予算で、市は跡地を購入するために土地鑑定を行い、商店振興組合が打ち出した地域コミュニティ施設の建設を後押しするとしました。

この地域コミュニティ施設は、「おいでメッセ」やアンテナショップのほか、観光客の「お休み処」、高齢者が集う「憩いの場」、趣味講座のための「多目的ホール」などを備えるもので、柳川商店振興組合が主体として国の補助制度を活用して建設をしようとするものです。

ただ、今回の提案ではその全体像や事業費、商店振興組合の費用負担などが示されておらず、またコミュニティ施設ということになると柳河校区公民館との兼ね合い、更に柳川商店街に施設が出来れば、他の沖端商店街、中島商店街、三橋商店街からも同様の要望が出てくるのではないか心配する声も上がりました。議会では、そういった課題を十分に踏まえ、建設ありきではなく慎重に検討すべきとの指摘がありました。

私は、都市計画マスタープランにもあるように柳川市の中心市街地は西鉄柳川駅から京町商店街であり、都市機能を中心市街地に集約していくコンパクトシティの理念にのっとり、マルショク跡地を活用するための購入を当初から訴えてきましたし、今回のマルショク跡地の購入のための予算には賛成です。しかし、通常いろんな施設を建設する場合、大まかな事業費や財源、運営方法などが示されて初めて土地鑑定に入るものですが、今回の提案は、何故そんなに急ぐのか、**市長選挙を意識したものに思えてなりません。**

○矢部川・沖端川の災害対策事業

昨年の7月14日に発生した九州北部豪雨災害では、柳川市では矢部川と沖端川の堤防が決壊し甚大な被害をもたらしましたが、このたび国の激甚災害対策特別緊急事業の指定を受け、国と県よって堤防決壊個所の本格復旧はもとより、堤防の強化、河川にたまった泥土の浚渫による河川断面の拡大などの災害対策事業が行われることになりました。

まず**国**においては、矢部川が決壊した堤防の本格復旧工事で六合・棚町地区の堤防の強化が行われます。更に、平成29年度までに六合から中島までの堤防の強化が行われることになり、**事業費**はみやま市と合わせ**105億円**です。

次に**県**が、沖端川の堤防決壊個所の本格復旧工事に加え、磯島付近の堤防のかさ上げと強化、出の橋下流、大門橋下流の浚渫を行い河川断面の拡大を図る。ダムの水位や流入・放水量、映像などの情報、沖端川の新村橋付近に設置される監視カメラの画像などを市のみならず市民へもインターネットを通じて公開することになります。更に平成29年度までに出の橋・大門橋の架け替え、固定堰である磯島堰の転倒堰への改修などが行われます。**事業費**は、みやま市分と合わせ**90億円**です。

平成24年12月20日

柳川市議会議員

佐々木創主

冒頭申し上げたとおり、私は今年の4月に行われる市長選挙に立候補を表明いたしました。決意するにいたった思いを述べさせていただきます。

合併から8年

平成17年の新市となって以降8年間を振り返ってみると、最初の**石田市政**では駅東部区画整理事業、漁業団地の建設が始まり、マスタープラン・都市計画マスタープランが策定され、将来の柳川市のあるべき姿が示されましたが、議会での対立と混乱が続きました。

そして、**金子市政**となって議会の混乱は少なくなり、着々と新市建設が進みだしたかに見えましたが、市町村合併の本来の目的である行財政改革は一定の目標は達成したとして足踏み状態となり、反面、国の財政優遇策を活用した建設事業は徐々に増加していき、これから8年間ではこれまでの7年間に比較して大幅に事業費を増やす大盤振る舞いのハコモノ建設を行うとしています。

柳川の現状

柳川市の貯金（基金）は120億円、借金（市債）は450億円という状況で、人口は平成17年の7万6千人代から7万1千人を切ろうとしており、**5千人の減少で市税収入も2億5千万円減収**となっています。更に、柳川市のもっとも大きい収入である国からの**地方交付税**は、合併の優遇措置で**14億円も多く交付**されていますが、それも**平成26年度を境に減ら**されてしまいます。そして、行政能力を高め国から自立していくという姿勢はほとんど見られず、「今までやったことがない、他の自治体の動向を見ながら」という右にならえという消極的な姿勢しか見られません。

今立ち上がらなければ

金子市長は、7億円をかけて改修される予定だった柳川市民会館を取り壊し、新たに大和町のピアス跡地に29億円をかけて文化会館を建設すると表明しました。何でもかんでも新しいものを買いたい、作りたいと、このまま大盤振る舞いのハコモノ建設が行われれば、財政破たんした夕張の二の舞になります。その前に、**大胆な行財政改革**を実行し、健全な財政基盤を創らなければなりません。そして、本当に何が必要なのか、今あるものを改修するなど、**将来の財政状況を見ながら、取捨選択してハコモノ建設**を行っていかなくてはなりません。そして、先人が築き上げた歴史・文化と水郷の街柳川、更に磨きをかけ「柳川に住み続けたい、新たに住んでみたいと思える美しい柳川」を創らなければなりません。

そこで、**今立ち上がらなければならぬ**との思いで市長選への立候補を決意いたしました。「もう一期待ってから」という声もかけていただきましたが、柳川が右に行くのか左に行くのか、これからの4年間は柳川の正念場なのです。

柳川待ったなし！！^{さ さ き そう し ゅ}佐々木創主（53歳）は強く美しい柳川を創ります！！

○柳川財政大改革

柳川市の貯金（基金）120億円、借金（市債）は450億円。市税は年間予算の2割しかなく、あと2年で国からの交付税は大幅に減らされます。人件費削減、業務体制改革、健全財政を創り行政運営を根本から見直した**自治体経営**を実行します。

○計画的なハコモノ建設

老朽化した学校校舎改築、駅前再開発、大和・三橋のコミュニティセンター建設。加えて、庁舎統合問題、市民会館移設問題、新たなゴミ焼却場・火葬場の建設などの新たな課題。何をどういう手順で行うべきか、今あるものを改修して使えないか、**子供たちの世代にツケを残さない計画的な公共投資**。

○目指せ筑後南部の中核都市

柳川を中心に放射状に延びる有明海沿岸道路、国道443号・385号バイパス。東に九州新幹線と九州自動車道、西に佐賀空港、南に三池港、北に長崎自動車道。筑後の人と物が集まり発信の拠点となる**筑後南部の中核都市**を目指します。

○美しい柳川景観を創ります

昔からの風情も失われ、統一感のない街並み。歴史に根ざした柳川らしい景観づくりを行い、誰もが住みたくなる、何度でも訪れたくなる**美しい柳川**を創ります。

○災害に強いまちづくり

強い河川堤防と強制排水機能、市民への災害情報伝達を強化するとともに、地区の特性に応じた地区防災計画の策定、地区防災活動を全面的にバックアップし、**災害に強い街づくり**。

○知・徳・体。健全な体、道徳心、高い教養は一体のもの。「教育を受けさせるなら柳川」と言われる全国トップレベルの教育を目指します。

○官から民へ。様々な地域課題、元気な地域づくり、地域のことは地域で決め実行できるまちづくり。

○高齢者の経験と知恵は柳川の財産。生きがいある高齢者福祉。

○皆が集まりたくなる商店街、中心市街地のにぎわいづくり。

○柳川でとれた米や海苔、産物を食べられる本当の地産地消。

○農業・漁業・商工業、そして観光が連携する柳川スタイルの産業活性化。

佐々木創主（53歳） 略歴

昭和34年柳川市大浜町生まれ

専修大学商学部卒業

衆議院議員秘書（10年）

市議会議員（10年）

柳川市新外町 119-2

TEL:0944-74-1907

FAX:0944-75-6058

Mail:soshu.s@nifty.com

<http://homepage3.nifty.com/soshu/>